



特定非営利活動法人

医学統計研究会

Biostatistical Research Association

Newsletter No.11 (128)

2014.11.29

本年も残すところ1ヵ月となりました。時の過ぎる速さに今更ながら驚いています。本研究会の「10周年記念事業」計画の具体化に向けて、いささか焦燥していた昨年の同時期に比べれば、忙しい中にも余裕があります。今年を「魅力ある思い出の1年」にするように、残り1ヵ月、皆様とともに最後をきれいに締めましょう。

1 定例研究会[東京]が以下のとおり開催されました[敬称略]。

日時：2014年11月7日（金）. 13時30分～17時.

会場：エーザイ(株) 本館応接室3

演者・演題：

丸尾和司. Box-Coxモデルに基づく中央値の差の推測について.

高瀬貴夫. 日常業務より.

藤澤正樹・後藤昌司. 訳書『医学統計実践入門』について.

松原義弘. 最近の勤行に拾う.

澤 淳悟. 臨床評価の今昔.

後藤昌司. 計画と遂行の過程2014.

課題検討会は「主水」で開かれ、6名の方々が参加されました。次回は12月19日(金)、13時30分～17時にファイザー(株)にて開催されます。

2 特定主題シンポジウム 2014「医薬品開発におけるバイオマーカの活用：個に基づく最適治療の探索」が以下の次第で開催されました[敬称略]。

日時：2014年11月8日（土）. 9時50分～17時15分.

会場：エーザイ(株). 小石川ナレッジセンター101A・B会議室

課題検討会は、「ヴィカボ」で開かれ、14名の方々が参加されました。

以下に参加者からの感想をまとめて掲載いたします。多数の方々が参加され、熱い議論で盛り上がりました[参加者21名：支援参加者2名]。



—特定主題シンポジウム2014でのひとこま—



—懇親会でのひとこま—

.....

特定主題シンポジウム 2014 の主題および講演・討論についてのご意見・ご感想

- 今回初めて参加させていただきましたが、個々の演題は表面的、一般的なガイダンスの紹介などではなく、より実践に近い形で自分自身として非常に参考になるものが多くありました。今後はもう少しケース・スタディが増えて具体的に討議できる事例などを紹介していただけると、実業務への応用という点で有意義になるのではないのでしょうか。 (匿名)
- さまざまな立場の方からのご講演であったので、自分は統計担当者の立場から普段この分野の研究を行っているが、とくに診断薬の分野の方からの意見は貴重だった。 (匿名)
- バイオマーカという用語をよく目にするようになりましたが、いったいどういうものなのか、どういう目的で用いられるのかがあまりよくわかっていませんでした。そのようなときにちょうどこのようなシンポジウムが企画されていて、何か取っ掛かりとなるのではと思い参加させていただきました。バイオマーカと一言でいっても様々な種類があり、目的も様々であることがわかり、いくらかでも全体像が把握できて勉強になりました。
コンパニオン診断薬の開発については、初めて得る知識でとても興味深く拝聴しました。個別化医療を進めるには販売時に同時に利用可能でないと意味がないと思うのですが、講演の内容からから医薬品と並行して開発するには現段階で多くの困難があることが理解できました。また、医薬品ごとに個別に診断薬を開発して医療現場に導入するのも現実的ではないように思えたので、今後どのように開発を進めていくことになるのか、社内でも同じ話題が議論されるようなので注目していきたいと思います。 (匿名)
- 門外漢ではありますが、オーダーメイド医療のお話は、今後の発展を含め、興味深い内容でした。バイオマーカ、診断薬などの開発なども初めて伺う内容ばかりで、見識が広がりました。統計的な内容では、今回、感度、特異度、ROC、カットオフの決定方法、エンリッチメント試験デザイン、予測点検曲線 (Predictiveness-curve) といった内容に興味があり、それぞれの位置づけや、講演者のそれぞれの指標に対する見解を伺えたことが非常に有意義でした。 (匿名)

今後にとりあげるべき主題や問題およびご希望の講師についてのご意見・ご提案

- 本会の最後の古川敏仁先生の講演が時間切れで終了となってしまったのが少し残念でした。もう少し先生の講演を拝聴したかったです。製薬会社に近い立場でのご講演になるので、色々と各製薬会社が「隠しがち」な情報が得られるのではないかと考えています。(匿名)
- アダプティブ・デザインに関して、実際の経験のある方のお話などが聞けると幸いです。(匿名)
- 今回の延長線上であれば、カットオフと予測点検曲線 (Predictiveness-curve) について深めた内容を伺ってみたいと思います。(匿名)

お礼:本シンポジウムに貴重な時間を割いてご参加いただいた方々、および講師の久保充明, 青島 健, 山口真理子, 大江基貴, 古川敏仁の先生方に心よりお礼を申し上げます。「バイオマーカ」を主題にとりあげたシンポジウムは、本研究会でも初めてであり、何人の方にご参加いただけるかを組織者として案じていました。そのような危惧は不要のように、多くの方々にご参加いただき、しかも貴重なご講演と活発な質疑応答で非常に実り多い生産的知見を与える印象に遺るすばらしいシンポジウムとなりました。さらに、座長としてご協力いただいた河合統介さんにお礼を申し上げます。会場の手配から、当日の細かい事務まで本シンポジウムを陰で支えていただいた高瀬貴夫さんを始めとするエーザイ (株) の方々に心よりお礼を申し上げます。また、いつもながらシンポジウムの裏方として支えていただいた藤澤正樹さんに感謝いたします。ありがとうございました。

後藤昌司, 松原義弘, 事務局一同

3 定例会[大阪]が以下の次第で開催されました[敬称略].

日時: 2014年11月22日(土). 13:00 ~17:45

会場: 株式会社ベル・メディカルソリューションズ: 大阪オフィス

演者・演題:

吉川隆範. 2重ベキ加重化変換の検討.

萩原駿祐. INLA の臨床試験への適用.

尾崎寿昭. 形状不変モデルの推測の評価.

吉田 歩. 線形関係式の推測と実際.

下川敏雄. 凸型多変量適応型回帰スプラインについて.

池田敏広. モデルに基づく用量反応の推測.

中村将俊. Trees Garrote.

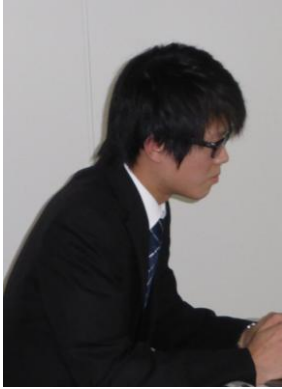
坂本 亘. 潜在 Gauss 型モデルによる推測とその複雑さの制御

松原義弘. 最近の話題から.

後藤昌司. 計画と遂行の過程: 2014.

討論: 大佐賀 智, 芦田昌樹

12名の方々が参加され、それぞれの発表で予定時間を超過する活発な討論が行われました。課題検討会は「九州八豊」で開かれ、上記の全員が参加されました。





- 4 前号でお知らせしましたが、10月25日（土）に開催されました定例シンポジウム2014「医療で必要とされる統計的基礎知識」の参加者からのご感想を以下に掲載いたします。時宜の関係で遅くなりました。ご容赦ください。

定例シンポジウム2014の主題およびご講演・討論についてのご意見・ご感想

- お世話になります。私は統計学の専門では全くありませんので、このような講義は大変にありがたく思います。Bayes流接近法やシミュレーションの統計的方法の講義は、成書のみでは理解しにくかった内容をわかりやすく教えていただき、大変に参考になりました。ありがとうございました。また、閉会後の藤昌司先生のお話とそのスライド内容も大変に興味深いので、可能ならば、HPで紹介していただくなどしていただければ幸いです。（匿名）
- 臨床評価におけるBayes流接近法への誘いでは、CRMでのご経験を通しての話してとても判かり易く理解することができました。また、最後にいろいろな臨床試験の例について列記があり、これからの業務において参照させていただきたいと思います。来年の2月の講演も楽しみにしています。シミュレーションの統計的手法では、標本サイズの算出にとどまらず、期待コストを含めた戦略的な活用のアイデアがとても参考になりました。データの視覚化については、判かっているようで、陥りやすい誤用を再認識させていただきました。PK-PDにつきましては、PKの基礎から丁寧に最近の話題まで幅広く網羅的に話が展開され、とても有意義でした。通常は、PK以外の臨床試験データを取り扱っていますが、PK関連部門より助力を依頼されることが時にあり、基礎からの知識を確認できたことが有意義でした。（匿名）
- 数年ぶりに「医療で必要とされる統計的基礎知識」の定例シンポジウムに参加させていただきました。何度参加しても、勉強になることが多いのですが、今回も大変に密度の濃い内容であったと思います。昨今の統計科学への注目度の高まりを受けて、統計科学を体系的に学ぶことのできる教材や講座などが増えています。しかしながら、医学・医療に特化したものに限れば、BRAの定例シンポジウムのような充実した内容のものは類を見ないのではないのでしょうか。1日のシンポジウムに参加するだけで統計科学の基礎を修得することは所詮不可能ですが、実務的な仕事をされている方々にとって刺激やヒントになるような話題が提供されているならば、十分に意義のあるシンポジウムであると思います。

特別講演をされた井元清哉先生のご研究は、同業者から見ても、本当に格好いいと思います。自身の研究に基づく解析方法で得られた結果が、医療の経験に合致しているというだけでなく、医療の

常識を打ち破るような成果に結びついたりすれば、これほど研究者冥利に尽きることはないでしょうね。 (S.W.)

今後とりあげるべき主題や話題およびご希望の講師についてのご提案

- 既に経時的測定データの解析の講義を過去にされていますので、講義済みかとも思いますが、もし、再度、欠測値の分類や扱い、解析に用いるモデル適用の際の条件、実際の使用事例などお教えくださる機会があれば幸いです。最近、友人から Rubin らの医療機器での“missing not at random model”での論文をもらいましたが、現在の私の知識では理解不能でして、まずは、このあたりも含めた基礎知識を解説いただける機会などがありましたら幸いです。私は精神科領域で長らく携わってきましたので、とくに上記について、評価尺度データの扱いなどに関連したお話が聞ければ大変にありがたく思います。近年、Network meta-analysis に関する講演を聴講いたしました。そのような講義がまた聴講できたら幸いです。 (匿名)
- Bayes 流接近法の来年 2 月のご講演も楽しみにしています。PK-PD につきまして、応用面の最近の話題について特化した内容がありましたら、聴講させていただきたいと思っております。 (匿名)

特定非営利活動法人・医学統計研究会の諸種の活動についてご要望やご提案

- 今後とも活動を継続いただけましたら、大変にありがたく存じます。 (匿名)
- 年に多くて 2・3 回しかお伺いできませんが、毎回、興味深いテーマでのご講演を企画されていて、とても楽しみにしています。今後も深く広い発展的な活動を期待しています。 (匿名)



— 定例シンポジウム2014でのひとこま —

お礼：本シンポジウムに朝早くからご参加いただき、ありがとうございました。本シンポジウムも「定例」として10年で13回を数えます。この間、支えていただきました河合統介さんをはじめファイザー（株）の方々に深く感謝いたします。講師の武田健太郎、丸尾和司、下川敏雄、鈴木昭之、井元清哉の先生方に心よりお礼を申し上げます。いずれのご講演の内容も啓発的で、かつ興味をそそられ、より深くお聴きしたいことが沢山ありました。今後にかけて「定例シンポジウム」の魅力ある歴史を刻んでいきたいと希っております。今後ともよろしくご高配をお願いいたします。

後藤昌司，松原義弘，事務局一同

5 今後の予定をお知らせいたします。来年にわたりますので、予定に書き入れていただくと幸いです[敬称略]。

(1) ウィンター・フォーラム2014が以下の次第で開催されます。

日時：2014年12月6日（土）。

会場：豊中市 中央公民館（阪急宝塚線曾根駅から徒歩3分）

講演会：9時30分～17時／臨時総会：17時～17時30分／納会：18時30分～：「順平」

(2) 冬季セミナー鹿児島2015が以下の次第で開催されます。

日時：2015年1月24日（土）。

会場：鹿児島県民交流センター：中研修室

連絡先：米山昭成・勘場 貢・古賀 正

プログラムは別途に配信予定です。

(3) 特定主題シンポジウム2015「臨床評価におけるBayes流接近法」が以下の次第で開催されます。

日時：2015年2月7日（土）。

会場：アステラス製薬（株）日本橋別館8階ホール

連絡先：武田健太郎・河合統介・廣岡秀樹

(4) 大分統計談話会第51回大会が以下の次第で開催されます。

日時：2015年2月12（木）-13日（金）

会場：富士通大分システムラボラトリー

連絡先：志賀 功・衛藤俊寿

Newsletter 編集：

後藤昌司・松原義弘・坂本 亘・富金原 悟・河合統介・藤澤正樹・杉本知之・大門貴志・伊藤雅憲・吉川隆範
連絡先：医学統計研究会 事務局 [吉田 舞・後藤 孚]

〒560-0085 豊中市上新田2丁目22-10-A411号

Tel & Fax：06-6835-8790 / e-mail：bra_goto@ybb.ne.jp / URL：<http://www.bra.or.jp>

本ニューズレターの転載は全文・部分を問わず禁止させていただきます。